

入選

人の温かさ

北海道 深堀中学校 2年 川口 舜

ぼくは、母と二人で親戚の人から借りている一軒家に住んでいるのですが、庭がとても広く、手入れをするのが大変なくらい夏は雑草が生い茂ってしまいます。そんなとき、近所の人たちがぼくたち親子を助けてくれるのです。すごく暑い日でも、草刈り機で草刈りをしてくれたり、草刈り機が使えないところはいっしょに草むしりをしてくれます。

また、冬は雪かきを手伝ってくれます。いやいややるのではなく、おじさんたちはいつも笑顔で手伝ってくれていて、近所の人たちの温かさを、とても感じます。ぼくは、そんなおじさんたちを見て育ってきました。

母が忙しかったり、疲れているときは、母の友達や、会社の人たちも、

「おかずを作ったから持って行きなさい。」

とか、

「これおいしいから食べてみて。」

などと言って、もらったりします。

近所の人たちや友達が助けてくれるのは、母の人柄なのだろうと最近とても感じます。母は、いつも笑顔で近所の人たちや友達、いろいろな人たちと接していて、逆に何か頼まれたときはいやな顔をせず手伝ったりしています。母はいつも、

「お母さんは人に恵まれている。」

と言いますが、ぼくは母が恵まれているのではなく、自分がまわりをそういう風に行っているのだと感じます。そして、いつも感謝の気持ちを忘れずにいます。

親切をされたとき、また、したとき、とても温かい気持ちになります。なので、ぼくもまわりの人たちが困っているときは、いつでも助けてあげたいと思っています。

以前、ぼくが学校で大きい物を運んでいたとき、友達が、

「重くて大変そうだね。」

と言って、さっと手を出して手伝ってくれてとてもうれしかったことを今でも覚えています。親切をされたことは、いつまでたっても忘れずに覚えているものだと感じました。

年齢に関係なく、子どもも大人も親切をしたり、されたりすることはとても気持ちがよく、幸せな気持ちになります。

そして、友達は本当に大切にかけがえのない宝物だと思います。そのことをこれからもずっと大切に、日々の生活でやさしさを忘れず、助け合いができる大人に成長していきたいと思っています。